

## たっちだより 第21号



## 訪問日記

リハビリ開始時、歩行は困難でベット上でずっと過ごされていたN様。「外を歩きたい、自分の足で歩きたい」という思いがあり、週2回のリハビリを開始しました。現在は室内を歩いて移動し、トイレやシャワー浴もほぼ1人で行っています。次の目標は、階段昇降ができるようになることです。





# 訪問看護を利用して

今まで母は押し車でトイレに行かれたのですが、突然へたり込んで歩けなくなりました。そんな時、私がぎっくり腰になり、これから先どうしようかと思っていた矢先、タッチの皆様を紹介して頂き、心優しい人達ばかりで、色々とサポートして頂く事になりました。とにかく心温まる対応に、より感謝をする次第です。日常会話の中に大笑いをしながら、母の面倒を見て下さっています。私 1 人ではどうにもならない事を、皆様のおかげで、毎日母と 2 人で頑張っております。感謝・感謝です。タッチの皆様に巡り合い、皆様の連係プレーととても素晴らしい人達に、喜びを隠しきれません。これからもよろしくお願い致します。 【O様の娘様より】



義母が緊急手術後、人工肛門になりました。自宅に戻る時は不安で、パウチ交換と入浴をお願いしました。最初の 3・4 か月はパウチからの便もれも多く、排便コントロールも上手にできませんでした。夜中に何度も呼ばれて夫婦ともに疲れてしまい、タッチさんの助言や温かな言葉がなかったら乗り越えられなかったと思います。今は時々トラブルはありますが、安心できるようになりました。介護は先が見えなくて不安が増します。ですが、手を貸して頂くと光がさして先に進めるように思います。いつも笑顔で義母だけでなく、私達まで気にかけて下さりありがとうございます。これからもよろしくお願い致します。 【S様のお嫁様より】



現在 84 歳の母は、2 月に重症の肺炎で入院しました。寝たきりになっても命だけは助かってほしいという思いで、毎日病室へ通いました。4 か月の入院を経て退院することが出来たのは、先生・看護師さん・理学療法士の方々のおかげと感謝しています。退院後は訪問診療と訪問看護でお世話になっております。タッチさんには 10 年前に父がお世話になり、無口だった父がタッチさんが来ると、“ニコッ”と笑っていたその笑顔は今も忘れられません。母の身体の具合だけでなく、色々な相談に乗っていただき、思い出話を楽しそうにしている母の顔を見ると、安心して任せられると思っています。この幸せな日が 1 日でも長く続くように願っております。これからもよろしくお願い致します。 【I様の娘様より】



TEL : 048-646-4701 FAX : 048-646-4700

E メール : [touch@nishiohmiya-hp.or.jp](mailto:touch@nishiohmiya-hp.or.jp)